



# 三弦

## 歴史と特色

三弦は通称三味線とよばれ、邦楽や民謡に欠かせない民族楽器として、芸能遊芸の盛んな金沢に受け継がれているもので、藩政時代東・西・主計町の花柳界を中心に発展した。金沢で製造され始めた年代は明らかではないが、文久2年(1862年)作の三弦が現存している。昭和初期をピークに戦前は玄人が主であったが、戦後は邦楽の普及や民謡ブームのため素人にも広まり需要は増加してきている。

規格品であきらめない演奏者の高級品を求める声もあるが、あくまで音色が重視され、義太夫、常盤津、清元、地唄、長唄、民謡と多種多様の需要に対応できる高度な技術保持者は少なくなってきている。材料は固い木がよく、棹の最高級品はインド産の紅木、次いで紫檀、果林である。胴はすべて果林を用い、皮は猫又は犬の皮を用いている。

## 历史和特色

三弦也被称为三味线，传承在文娱技艺盛行的金泽，是一种民族乐器。在封建时代，以三茶屋街为中心发展起来，现存最古老的三弦是制作于1862年。三弦琴竿的材料是印度产红木，紫檀，木梨等坚硬的木材，琴身的材料使用的是木型树。

### 情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)
主な製品名(主要产品名)	三味線(三味线)
主な生産者(主要生产者)	福島三弦店(福島三弦店) 〒920-0831 金沢市東山1-1-8(金泽市东山1-1-8) TEL (076)252-3703 安田琴三弦店(安田琴三弦店) 〒921-8031 金沢市野町2-2-32(金泽市野町2-2-32) TEL (076)241-1423



## 歴史と特色

慶長14年(1609年)加賀藩主が播磨から革細工の名人と言われた佐衛門五郎を金沢に招いたのが始まりと言われている。加賀藩は外様大名であったため、武芸より文化芸能に力を入れたことで、軍事用の外、能楽、雅楽、神事、仏事、祭礼用の楽器として太鼓の需要が多かった。明治以降も順調で、昭和初期には県内で10軒程度が製造していたが、第2次世界大戦中1軒に整理され、現在も伝統技術を伝えている。原木のケヤキ、セン等の乾燥から始める一貫作業で、皮の処理に昔ながらの技法を用いることや、霊峰白山より流れる手取川の水質がよいため、皮が丈夫で音が良いことで全国に知られている。特に、胴の長さ2.5m、皮の直径2m以上の大太鼓も製作し注目を集めている。

## 历史和特色

加賀藩因在文化艺术上投入了大量的财力物力，作为能乐、雅乐、神事、佛事、祭祀用乐器——太鼓的需求很高。加賀太鼓因皮质结实音质优良而广为人知。还能制造出长达2.5米，皮的直径达2米的大太鼓，非常引人注目。

### 情報 资讯

主な生産地(主要产地)	白山市(白山市)
主な製品名(主要产品名)	長胴太鼓(长胴太鼓)
主な生産者(主要生产者)	(株)浅野太鼓楽器店((株)浅野太鼓乐器店) 〒924-0051 白山市福留町587-1(白山市福留町587-1) TEL (076)277-1717

# 太鼓